

東大野球部

New! メールマガジン



Vol.61

ついでに

12月に入り、例年よりも厳しい寒さが続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか。

東大野球部では選手たちが厳しいトレーニングに耐えながら体力作りに力を入れております。今年も残りわずかですが、気を抜かずに怪我・風邪等に気を付けながら練習に励んでおりますので、今後とも変わらぬご声援を、どうぞよろしくお願い致します！

新監督&新体制特集!

今回は浜田新監督率いる新体制について特集します。浜田監督へのインタビューと、新体制になって変わったと感じたことを選手に聞いてみました!

Q1 なぜ監督になろうと思ったのですか?

「野球が好きなので、30歳で脱サラしたときから、50歳でセミリタイアし母校の野球に関わりたいと考えており、今回チャンスをいただいたので、お引き受けした。」

Q2 監督になって心掛けていることは?

「とにかく基本をしつこくくりかえすこと。」

Q3 監督になって選手に対して印象が変わったことはありますか?

「監督になる前5年間スカウト活動を通して選手を知っていたので印象はそのまま変わらない。」

Q4 東大野球部をどんなチームにしたいですか?

「もっとねばってしつこいチーム。」

Q5 ファンの方々に對して一言!

「絶対にドキドキハラハラするような試合が増えるので、ぜひ神宮に来てください!」



浜田一志新監督プロフィール

高知県生まれ、土佐高校出身

現役時代は3年時に一試合で2本塁打を打ち、東大の一試合最多本塁打記録を持つ。

4年時は主将をつとめた。

2006年からは東大野球部スカウト部長として全国各地の中学・高校で講演活動を行っていた。

浅井 俊一郎(3年・投手・県立浦和)

新体制になって、チームの雰囲気が変わったと感じます。1日の始まりには全員でスローガンを声に出し、緊張感を持って練習に臨みます。集中して練習した後は全員揃って終わり、各自が授業、個人練習等に移ります。メリハリのある充実した日々を送り、春のリーグ戦の勝利をつかみ取ります！

畠山 征也(3年・内野手・半田)

一番変わったと実感することはそれぞれが明確な目標を持つようになったこと。新チームでは「限界突破+5」をテーマに冬の間に体重や球速などいくつかの項目の数値の「+5」を目指しています。そのためチーム全体で妥協せず、高い意識を持つとうといういい雰囲気の中練習ができています。

高橋 壮(2年・外野手・私立武蔵)

新体制になって以前より練習にメリハリが出てきたと感じます。監督は時間を短く区切って選手に集中を促す方です。そのため、今まで後半はだらけがちだった全体練習が、締まった雰囲気が持続したまま最後まで行われるようになっていきます。



高木 一史(1年・外野手・土佐)

新体制で変わったと思うのはチームの雰囲気です。とにかくメリハリが強調されるようになったと思います。勉強と野球、練習と休養、遊びと真剣、など。また浜田監督は選手のやる気を引き出すのが上手で、個々の意識も変わったと思います。行動力溢れる新監督の下で、一丸となった今、チームの成長を日々感じます。

辰亥 由崇(1年・投手・高松)

新体制になって浜田監督やコーチのご指導のもと以前にもまして高い意識で練習に取り組んでいると思います。スローガンを全員で唱えてから練習が始まるようになり全員が自分の限界を越えようと努力しています。

編集後記

今回の特集はいかがでしたか。

新体制になり、浜田監督のもと今まで以上に高い意識で練習が行われるようになりました。来春のリーグ戦での勝利にむけて選手一同練習に励んで参ります。寒い日々が続いておりますが、皆様も風邪などひかれぬようお気を付けてください。

それでは、今後とも東大野球部をよろしくお願ひ致します。

お問い合わせ先

〒113-0023

東京都文京区向ヶ丘1-5-9 一誠寮

TEL&FAX 03(3811)5100

メールアドレス office@tokyo-bob.net

メルマガについてのご意見、配信停止のご希望がございましたら上記連絡先までご連絡下さい。

